

令和4年3月24日(木)

(朝日新聞)では、まずは市長から、よろしくお願いします。

(上定市長)よろしくお願いします。今日は、この令和4年4月1日付の人事異動と機構改革の話させていただきます。先ほど、2月議会が閉会し、組織改革・人材配置についてご承認いただきましたので概要をご説明します。

1つ目が、「松江市総合計画」、令和4年度スタートして8年間のまちづくりの道しるべとして今回策定いたしました。松江が目指すべき将来像として掲げております「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」を創造するために必要な推進体制の構築です。もう一つが、喫緊の課題であります新型コロナウイルス感染症の対策、ワクチンの接種を含みますが、この体制の強化をする布陣ということで組織改革、人材配置を行っています。

組織機構の中で、主な組織改革の内容です。政策部の機能を強化し、部ごとの連携強化というのを図ってまいります。庁内横断的に横串を通し連携して課題に対して講じていくという体制をつくってまいります。そして、部署の新設ですが、環境保全部を機能強化し、脱炭素、再生可能エネルギーへの取組についても所管する形で、環境エネルギー部を新設します。また、これまで3つの部にまたがっておりました文化行政をまとめ、また、スポーツも取り込む形で文化スポーツ部を新設します。さらに、健康部と福祉部を1つの部署にして一元管理するという事で健康福祉部も新設します。もう一つが都市整備部。これは今も都市整備部という名前でありましたが、歴史まちづくり部と都市整備部を一緒にして、新都市整備部とします。これまではインフラの整備と運用が分かれていた形だったのを、一気通貫で対応できるようにします。全ての部署に共通して言えるのは、庁内連携の強化、部署間の縦割りをなくし、オール市役所として庁内横断的に取り組める部局間連携、総合対応力の強化のための組織再編とした次第です。

市民部は、市民の皆さまの窓口として機能しておりましたが、さらに、支所、公民館との連携を強化していくために、政策部の支所機能を市民部に持たせることとします。新設する文化スポーツ部については、政策部、観光振興部、歴史まちづくり部に分かれていた文化・スポーツに関する業務の所管を一元化していくということ、そして、文化政策を所管する新たな文化振興課というのを設けております。これによって、文化・スポーツの魅力と価値を高める取り組みを強化します。

主な課、係の新設・再編についてです。政策部にSDGs推進課を新設します。カーボンニュートラルなどのSDGsの達成に向けた取り組みの推進を通じて市民生活の充実、経済の活性化、ビジネス機会の創出などを図っていくための課になります。

新設した環境エネルギー部とSDGs推進課とで連携し、「SDGs未来都市」、これは内閣府が認定を出している制度になりますが、島根県の自治体で、まだこの認定取得をしているところはありませんが、第1号となるべく、「SDGs未来都市」取得を目指してまいります。

デジタル戦略課を新設します。これまでも情報政策推進室というのがありましたが、今回名前を変更しました。市民サービスにおいてデジタル化を図ることで利便性の向上、市民の皆さんに使いやすい行政サービスを提供していきたいという思いから、「みんなにやさしいデジタル市役所計画」を策定しました。デジタルトランスフォーメーションの推進、行政サービスの利便性を高めていく舵取りとなるのがこのデジタル戦略課ということに

なります。

次に、市長公室を新設します。政策部が今回機能を高め、部局間の横断をつかさどりやすい形にするために、市長公室というのを設けました。

もう一つ、教育委員会の中の学校教育課にICT教育推進係というのを新設します。今、松江市としてICT、デジタル化を活用した教育というのを推進しております。今年度末までに市立の小・中学校、義務教育学校の1人1台のタブレット端末と、各教室に対する電子黒板の配備というのを終えております。それを今後活用してICT教育を推進していくための部署としてICT教育推進係を新設しました。

組織と人員数ですが、部署につきましては、13部から12部になっています。人員体制については、1,134人から25人増えまして1,159人となっています。

次に4月1日付の人事異動についてです。人事異動の規模は708名です。組織の改編もありましたので、前年度と比べは30人増えています。

昇任者数ですが、女性職員の課長補佐、係長級の昇任が今回多く、22名が昇任し将来の管理職候補ということになります。

次に、理事の設置でございます。理事という役職を12年ぶりに設置しました。市長、副市長、その下に理事がいて、全体の部署を取りまとめるということになります。理事には政策部長事務取扱、つまり理事が政策部長ということになります。山根現政策部長が理事・政策部長事務取扱というポジションに今回昇任します。山根部長は、もともと産業経済部長、産業経済部次長で、松江産業支援センター長も務めており、今年度に政策部長になりまして、今回、政策部長という名前はそのまま理事という役職を持ち、全体を取りまとめるということになります。山根部長は、非常に吸収力があり、新たなことにも貪欲に、情報をキャッチして、どういう形で松江市が踏み出していくのがいいのかを総合的に考える力にたけています。今後、新しい取組をするに当たっても、前例にとらわれることなくチャレンジし、全体の部署を取りまとめながら進めてくれるものと考えています。ちなみに、ラーメンと漫画が好きで、漫画は月に20冊は購入し、歴史物、「キングダム」とか「三国志」とか、そういうところが好きだそうです。

次に、新型コロナウイルス対策、ワクチン接種の体制の強化のための人員の配置についてです。まず1つ目、保健所体制の強化です。正規職員を今回、5名増員します。専門職となります医師、薬剤師、保健師、管理栄養士について増員することで、体制の強化を図ってまいります。ワクチン接種の体制の強化として、これまで兼任であった職員を9人、専任にいたします。これによって10名の増員を図り、13名だった部隊が23名になります。さらに責任あるポジションとして専任の次長も配置します。

次が、管理職に占める女性の職員の比率、女性登用率についてです。平成27年から令和4年までの各4月1日時点の女性の管理職の数を全体の職員数で割った数字ですが、27年は14.0%だったのが、右肩上がりになっておりまして、令和4年4月1日時点では26.4%となっております。ほかの自治体、中核市の平均値などを見ると、その倍ぐらいの水準で、自治体としては高いと考えております。今回「第3次男女共同参画計画」を、この4月からを対象期間として策定しており、その中でうたっている令和8年度末の目標値の30%に向かってさらに右肩上がりになっていくように、女性を登用してまいりたいと考えております。

市長公室についてです。今回、新たに設け、政策企画官を3名配置します。いずれも課長級です。室長は先

久です。今、総務部総務課の総務係長で文書管理等の要のポジションにおります。2人目は、政策企画課市長秘書という肩書になりますが、今岡政策企画官。現在も政策企画官としての役割を負っておりますが、引き続きということで、今回、市長公室に配属になります。同じく藤井政策企画官ですが、今、歴史まちづくり部の史料調査課にいまして、松江城を主に担当しています。文化庁への出向経験などもあります。彼が政策企画官として新たに就くことによって、新たな3人のチームをつくってまいります。そして、私からの指示、あるいは政策部長との結節、そして庁内各部との連携を図る結節点になります。

また、各支所の地域振興課長に若手の地元出身者を登用しています。それぞれ鹿島町、美保関町、八雲町の出身で、故郷に錦を飾るべく、配属しています。鹿島の平井課長は政策企画課の主幹という立場です。美保関の池田課長は子育て支援を担当しています。八雲の小西課長は、松江市の総合体育館の事務局長をやっております。

今回替わった部長をご紹介します。現在の政策部次長の佐目が防災部長となります。佐目次長は政策部が非常に長く、政策部の観点から防災について所管しており、部長級の中では非常に若いですが、政策部で全体の取りまとめを長くやっており、防災部でも力を発揮してもらえものと考えています。

次に、産業経済部長は、市民部の次長をしています松浦になります。松浦部長は行政改革の課長あるいは財政課と全体の取りまとめをするセクションにこれまでいました。そして、今は市民の皆さんの窓口である市民部の次長ですが、今後、産業経済部長として、特に新たな取り組み、職人商店街、あるいは起業エコシステム等の松江市の目玉となっていくようなプロジェクトについての推進力となってもらえることを期待しています。

次に、観光部、土江部長です。現在、福祉部の次長ですが、もともと観光のセクションにもいまして、また、交通政策についての経験も豊富でございます。

文化スポーツ部は松尾部長です。現在の歴史まちづくり部長から部の再編もあり文化スポーツ部長ということになります。松尾部長は、どちらかというと文化系でして、中学校のときにチューバを吹いていて、今もクラリネットを吹いていますが、広島カープのファンでスポーツも好きということです。歴史まちづくり部との連続性を持って文化スポーツ部にも当たってもらうこととなります。

健康福祉部長は、松原部長になります。財政部の次長ですが、もともと旧健康福祉部、そして現在の健康部の経験が非常に長く、今回就任いただきます。

子育て部は青木部長です。今、子育て部の次長をしております。その前にも市民部、あるいは健康福祉部にあり、市民の皆さまの生活に直接関わる仕事に長く当たってもらっています。

環境エネルギー部は花形部長です。今、環境保全部長で、その前は観光振興部の次長をしていました。環境保全部の中でも、既に再生可能エネルギー等の取り組みについてもかなりチャレンジングに新しいことを考えてもらっていまして、引き続き、環境エネルギー部という形で、所管を広げて、再生可能エネルギー等にも取り組んでいただきます。

次の森原現産業経済部長には、今回、都市整備部の政策監という新たなポストに移ってもらいます。森原部長は、産業経済部長の前が都市整備部の次長ということと、都市整備部が現在、歴史まちづくり部が持っているような商店街の活性化等の機能についても今後担っていくということになり、産業経済部長として培ったネットワーク、あるいは産業経済分野における施策の展開について、都市整備部とリンクしていくといったところ

を狙いとして、森原政策監を配置します。

監査委員の事務局長には、勝部事務局長、今の財政部次長になります。

消防本部の消防長は田村消防長です。田村消防長は、島根大学の農学部を卒業後消防本部に入り、消防次長に今あります。消防次長から消防長に今回昇任となります。

最後に、市立病院の事務局長、山崎事務局長です。山崎事務局長も、市立病院の次長の立場です。松江市に入庁してからすぐに市立病院に配属となり、市立病院を知り尽くしているという、信頼が置ける次長を今回、事務局長として昇任ということにいたしました。

新任の部長級、市立病院の医師3名についても触れさせていただきます。

芦田先生、今、診療部長ですが、今回、副院長に就任していただきます。河野先生、今、診療部長ですが、同じく副院長に就任していただきます。そして、辻診療部長については、診療局長にご就任いただきます。

最後に、新規採用職員について、4月1日付の採用というのが、合計133名となります。本庁、教育委員会、そして消防本部、また交通局、市立病院において採用します。新たに職員となるフレッシュな皆さんにも非常に期待をかけております。

私からの説明は以上でございます。質問、よろしく願いいたします。

(朝日新聞)横串という言葉がありました。この意識というか、例えばスピード感を持つとか、あるいは多彩な政策を展開するとか、その狙いを手短かに言うとどんな感じになりますか。

(上定市長)私が一市民として生活している中で、例えば商店街に出かけ何かを買うときに、そこまで歩いていく、あるいは公共交通を使って行く、全て生活の中でつながっています。行政において、それぞれが専門分野を持っていますので、専門性が高い職員が育つのはとても重要ですが、一つの部署の一つの事柄だけを考えるのではなく、どういったつながりが市民生活にあるのかというところに、常にアンテナを張ってもらいたいと職員には言っています。同じ部署にずっと固定的にいと、どうしても専門性が高くなり、なかなか横に目が広がりにくくなる場所があります。それを意識的に広げていくということで、一つは部署の構成を、例えば健康部と福祉部というのを一体化することによって、今まで健康部だった職員が福祉部の職員の仕事も見ることが出てくると考えています。もう一つは、トップダウンの機能に近いかもしれませんが、政策部が全体を所管する機能を強化し、俯瞰することによって、ここの部署とここの部署が同様の取り組みをやっているといったときに、プロジェクトチームを組んで一緒にやればいいのかとか、今回デジタル戦略課をつくれますが、庁内で色々なICTの活用を、子育て部が特にIT、情報リテラシーの高い子育て世代の方を中心にして、スマホでの保育料の支払いや入所手続を行っています。そういったことを他の部署にも展開できるのではという目線で、横展開しやすい形にし、市役所全体の総合力を高めていくという狙いで、今回の組織再編を行いました。

(朝日新聞)山根理事は、昇任という言葉が使われましたが、例えば部長級とか課長級とかでいうと理事級になりますか。

(上定市長)そういう言葉はなくて、理事です。部長は部長級ということで、部長以外の、市立病院の事務局長なども当たりますが、理事は1人だけ置く形になりますので、役職としては部長と副市長の間にあると捉えていただきたいと思います。

(朝日新聞)女性職員の管理職等における比率ですけど、「等」とあるのは、課長級以上ということですか。

(上定市長) 一般的に課長級以上ですね。課長級以上に占める女性職員の比率ということになります。

(中国新聞) 女性管理職の人数は何人になりますか。

(上定市長) 42人になります。

(中国新聞) 女性管理職の目標値について、令和8年度末までに30%を目指すということですか。

(上定市長) 令和8年度末の目標を30%としていますが、できるだけ早く達成できればと考えています。

(中国新聞) 支所に地元出身者を登用するというところの狙いを教えてください。

(上定市長) 私もまさにそうですが、地元に戻って地元で貢献したいという気持ち、特に今回支所に配属した者は、最初の入庁が鹿島町であったり美保関町であったりします。地元勤務した経験があって非常に詳しいですし、それこそ住民の方の顔と名前が一致するような関係にあります。支所にできるだけ若く、頭が軟らかい職員に行ってもらい、地域のいいものを色々組み合わせると、松江の中心部に匹敵するぐらい、新たな取り組み、すばらしいコンテンツに磨き上げることができると考えています。地元のことをまずよく知っていて、顔もわかっているので、比較的意思疎通も図りやすく、意思形成もできやすい地域振興課長が中心になって新たなプロジェクト、新たな価値を生み出していくような仕事というのに適任である、そういう潜在性があると考え配属しています。他の支所でも、地元出身ではないものの、柔軟に物事を考えて新たな展開に結びつけていけるような職員を、この地域振興課長として今回配置しております。

(中国新聞) 新型コロナウイルス対策で、ワクチン接種体制の強化、専任職員を10名増員ということですが、実施本部の人数を10人増やすということによろしいですか。

(上定市長) 今回、実施本部を、コロナワクチン接種事業課という一つの課に組織上しております。外向きには、紛らわしいので、これまでどおりコロナワクチン接種本部という言い方をしますが、課として位置づけたことで、きちんと人も張りつけて、人数も増やして、今後のワクチン接種の体制を盤石にしていくという狙いです。

(中国新聞) SDGs推進課と環境エネルギー部、いずれもカーボンニュートラルですとかエネルギー関連の取り組みをされるということですが、SDGs推進課が政策部内にあるというのは、環境関連だけではなく、環境エネルギー部と連携しながら、ほかのSDGsに関する施策も進めていくということに分けておられるという理解でよろしいですか。

(上定市長) おっしゃるとおりです。SDGs、17項目あり、環境というのはもちろん非常に重要な施策で、松江市としてもぜひ進めてまいります。それ以外についても、全ての部署に関わりますので、政策部の中に全体を包含する形でSDGs推進課を置き、特に連携していく先として環境エネルギー部は欠かせないと思っています。環境エネルギー部が新しい取り組みを行うときに、SDGs推進課と一緒に進めてまいります。ほかの部署でもSDGsの取り組みを進めていくに当たり、その取りまとめ部門として政策部内にSDGs推進課を設置することとしました。

(読売新聞) 理事というポストに関してですが、部長級という理解でよろしいですか。

(上定市長) 政策部長の任も兼ねておりますが、職位としては部長より上になります。理事が部長の任務を負っているということになります。

(読売新聞) 副市長に関しては3人体制継続ということだと思っておりますが、この点に関して検討されましたか。

(上定市長) 全体の検討は、副市長に限らず行っております。副市長の必要性等を考え、4月以降も現状の体

制となります。

(読売新聞)例えば現行の3人から2人にするとか、3人のままだが市の運営にとっていいという何らかの判断があったと思いますが、それについて教えてください。

(上定市長)4月1日の時点で副市長について何か変更ということは考えておらず、むしろ、各副市長が所掌している事柄の内容、連続性、それぞれの副市長の技量を考えたときに、ベストの体制を組んでいく必要があり、今の体制がベストと考えているところです。

(山陰中央新報)理事についてですが、部長級よりも上で、副市長に次ぐ立場という認識でよろしいですか。

(上定市長)はい、結構です。

(山陰中央新報)副市長それぞれが各部を持たれて調整役を担っておられると思いますが、その下に位置づく理事の立場で相互調整をし、政策を連携する体制を整えるのと、スピーディーに進めるというような狙いもありますか。

(上定市長)そうですね、そもそも政策部長というのが、理事であるかどうかを問わず、全体観を持って、市長、副市長と全体をつなぐという役割があると思います。それを一つ明示的にしたいという思いがあって、今回、理事という役職をつくることにしました。副市長は各々所掌を持っていますので、理事は全体を見て、その中で副市長の判断を仰ぎ、またつないでいく役割が明確になるよう理事という形をとりました。

(山陰中報新報)保健所の体制強化で5人増員をされるということですが、医師、薬剤師、保健師、管理栄養士を含めて5人増員ということですか。

(上定市長)はい、専門職を今回5人増やすということになります。

(山陰中央新報)ワクチン接種の体制強化ですが、現在は健康推進課内に新型コロナウイルスワクチン接種実施本部があるという認識でよろしいですか。

(上定市長)そのとおりです。現在は健康推進課の中で事務分掌上は課として位置づけず、新型コロナウイルスワクチン接種実施本部というものがありません。それを今回、課として位置づけ、コロナワクチン接種事業課が新設された形になります。

(山陰中央新報)本部を課に格上げしたという認識でよろしいですか。

(上定市長)おっしゃるとおりです。ただ、外向きには分かりにくいので、今後も本部という名前は使ってまいります。

(山陰中央新報)都市整備部は、部長もおられて、部長級の政策監もということですが、この狙いは。

(上定市長)これからまちづくりについて相当力を入れていきたいと考えています。例えば土地利用制度、公共交通政策、そういったところについて、時間はできるだけかけずに力を入れなければならないという認識を持っています。歴史まちづくり部と都市整備部が一緒になりますし、産業分野との連携も森原政策監には期待しています。

(毎日新聞)新たに設置される市長公室についてですが、今後期待される具体的な役回りを教えていただけますでしょうか。

(上定市長)市長、副市長が特に指示を出した事項について、正確に各部に伝え、また各部の意向を正確に市長、副市長に伝達する役割です。縦連携と横連携の両方の結節点という言い方ができると思います。トップ

ダウンあるいはボトムアップで上がってくる情報を、齟齬がない形で、各部が全体観を持ってバランスよく、それぞれの部署の縦割りではなくて、政策企画官がそれをつなぐことによって全体の力を最大化する、それが狙いですね。現在の政策企画官は政策企画課の所属としてやっており、さらに充実させる必要があると感じており、今回、それを一つのチームにしたときに、市長公室というものを新設したという形になります。

(毎日新聞) 政策企画官と市長秘書を兼ねる方が、お三方、新たに登用されるわけですが、これは結束をさらに強くするべく人を増やしているという認識でよろしいですか。

(上定市長) 現在の、政策企画官も新設したポストでやってくれていました。秘書広報課は別にあり、いわゆる秘書の事務とは別に配置しています。今回、市長秘書という名前もつけたのは、私に随行して出かけ、色々な方と名刺交換をすることにもなりますので、分かりやすい形でポジションを表すために、市長秘書という名前があるほうが仕事がしやすいという理由になります。

(島根日日新聞) 人事異動の規模ですが、この708名というのは、本庁と企業局を合わせた数ということでしょうか。

(上定市長) 本庁と企業局を合わせた全体の数ということになります。